

2018年度 工場見学 見学記

化学科三年生による工場見学を2月26日に行ったことを、この場を借りてご報告させていただきます。学生が21名と、引率として末永先生、山本先生に参加していただきました。

午前は、味の素 川崎工場を見学しました。はじめにクライアントイノベーションセンターにて、全員で味の素の会社についての説明を受けました。食品関係のイメージが強い味の素ですが、あらゆる生物の"いのち"の源である「アミノ酸」の研究・開発により、飼料・肥料、化粧品、スポーツサプリメントをはじめ、先進医療、電子材料などさまざまな分野に可能性を広げていることを知りました。また、施設内は白に統一されとても洗練された雰囲気、子供から大人まで楽しめるような色々な展示物が置いてありました。説明後の自由時間には、皆それぞれ興味のある展示物を眺めたり、直接触れたりと楽しみました。その後、実際に研究を行っている施設を見学しました。私たちに馴染み深い実験器具や機械から、全く見たこともないものまでたくさんの種類があり、実際の現場の雰囲気を体験することができました。こちらの施設では、ほとんどの人が白衣でなく作業着姿でした。一部のチームでは、危険の伴う作業があるため、作業着の義務化されているそうです。最後に、慶應の卒業生である味の素の若手社員の方との座談会を行いました。実際に働いている方からの貴重なお話を聞くことができました。

午後は、富士フィルム 小田原工場を見学しました。はじめに、全員で、神奈川事業場紹介映像と記録メディア紹介映像を見た後、記念撮影を行いました。その後、2グループに分かれ、記録メディアが作られるまでの過程、具体的には、塗布行程、スリット行程を見学しました。今回は、残念ながら施設の都合上加工行程を見学することはできませんでした。全て施設に入る前に、専用のビニールのスリッパの着用が義務付けられていました。富士フィルムも、一般的なフィルム、カメラ以外にも化粧品分野に精通していることを知りました。化粧品と写真フィルムは、実は大きな共通項を持っていて、もともと持っていた写真フィルムの技術を応用して化粧品分野に参入したそうです。その後、座談会を行い、人事部の方と実際に研究を行っている方から違う目線からの貴重なお話を聞かせていただきました。

化学の力がどのように社会に応用されているのか、現場の方々の声を聞かせていただいて、普段の勉学や将来を見つめ直す機会になりました。最後になりましたが、お忙しい中貴重なお時間を割いてご協力いただいた味の素 川崎工場、富士フィルム 小田原工場の方々に心より御礼申し上げます。

2018年度工場見学幹事・副幹事
寺坂一也・村松志歩